case 15 金融業・保険業

株式会社千葉銀行

子育て支援は制度面の充実のみならず、職場復帰前後の不安も和らげる

子育て支援の充実化の一環で、制度強化のみならず、子育てと仕事との両立に対する不安を和らげるため、職場復帰前後に、先輩職員と情報交換をする機会を提供しています。個別面談によるサポートも実施しながら、今後は管理職や周囲の職員、一人ひとりの意識を変えていくと同時に、介護についても取り組んでいきます。

企業プロフィール

設　　立：1943年
本社所在地：千葉県千葉市
事 業 内 容：銀行・保険業（普通銀行業務）
従 業 員 数：4,373名（うち女性1,635名）

女性の活躍支援から両立支援の取組みへ

当行の両立支援の取組みは、女性の活躍推進からスタートしました。1998年に投資信託の銀行窓口販売が解禁され、その販売の主力となったのは女性であったこと、また、2003年に次世代育成支援対策推進法が制定されたことを契機に、女性の活躍推進に取り組み始めました。まずは、2005年に「女性いきいきキャリアアップ宣言」を作成し、行内にポスターなどを貼り、大々的に周知しました。職域拡大、人材育成、環境整備を3本柱とし、様々な取組みを実施してきました。現在では、その取組みを女性のみならず職員全体へ拡大させ、毎年2月・8月を「19時（いくじ）に帰ろう月間」とするなど、職員全員が家庭と仕事を両立できる環境整備を進めています。

特徴的な制度と取組み

- **育児休業は子が2歳になるまで（保育所入所不可の場合は3歳まで）、かつ10日間有給。**
- **職場復帰前に、「職場復帰応援セミナー」を開催。**
- **職場復帰後に、「ちばぎんママの会」の開催や、個別面談を実施。**
- **介護に関するニーズを調査し、今後の課題を把握。**

人材育成部
給与・厚生グループ
副部長
女性活躍サポート
チームリーダー
斎藤 千草（右）
人材育成部
能力開発室 調査役
山本 悠介（左）

育児と仕事との両立への不安解消のために、復職前後をサポート

女性の活躍推進の一環として、育児との両立支援に取り組み始め、育児休業期間の拡大や、看護休暇の対象拡大、職場復帰プログラムの導入など、制度面での充実のみならず、近年ではメンタル面も考慮に入れて、職場復帰前後の不安解消のための取組みも行っています。2009年からは、育児休業者を対象にして、「職場復帰応援セミナー」を開催し、先輩職員との座談会を実施しています。2012年からは保健師による講演も盛り込みました。参加者は、子どもや配偶者と一緒に参加することも、子どもを一時的に預けることも可能です。参加者からは、先輩職員1日のタイムスケジュールや、保健師の講演が非常に参考になったと好評です。
また、職場復帰後にも子育て中の職員を対象にした「ちばぎんママの会」を2012年から開催し、情報交換のための機会を提供しています。さらに、復職者やその管理職なども対象にして、「女性活躍サポートチーム」のチームリーダーが面談を実施して、個別にサポートを行っています。

職場復帰応援セミナーの様子

職員全員の意識を変えていき、介護への課題も見据える

当行における両立支援の取組みは、主に女性の活躍推進を中心に取り組んできましたが、このような取組みも、まだ過渡期です。男性が多い職場のため、管理職や周りの職員の中には、育児と仕事を両立させたい職員をどのように扱えばよいかわからない者もおり、一人ひとりの意識を変えていかなければなりません。そのために、上記のような個人との面談が必要だと考えています。
また、介護についても今後の課題です。毎年実施している意識調査の中で、介護に関するニーズを把握したところ、家族の介護が必要になったらどうなるのか不安を感じている者が多く、情報が欲しいという要望も多くありました。今後は、情報提供から取り組みたいと考えています。

従業員の声

後輩の育成にも携わりながら、時間を逆算して目標に取り組む

ユーカリが丘支店
吉武 麗

●利用した制度：育児休業（1年6カ月間）

復帰前に状況を詳細に尋ねてもらい、希望通りの働きやすい支店に配属

私が職場復帰する際は、人事担当者が事前に、母子双方の健康状態や希望する職場など、こちらの状況を詳細に尋ねてくれました。そこで、突然の休みにも周りの方が対応できるよう人数が多く、保育所にも近い支店を希望したところ、最初は元の職場に復帰して数カ月後に、希望通りの支店に配属してもらえました。その支店は、女性が多い職場で、上司も女性であったため、子育てをしながら働くことは普通という雰囲気が浸透していました。周りの同僚も温かくサポートしてくれ、恵まれた環境で働いています。

職場復帰応援セミナーに先輩ママとして参加

私が育児休業から復帰した当時は、残念ながら、「職場復帰応援セミナー」は開催されていませんでした。しかし、今年の12月には、先輩職員として参加し、自分の経験を後輩に伝えました。子どもは保育園で先生や友だちと接することで、色々な経験をしながら、学ぶことができます。一方、自分は仕事をすることで、自分だけの時間を持ち、子育て以外にも「何かに頑張っている充実した時間」を持つことができます。育児と仕事を両立することは、確かに大変ですが、それは最初だけです。慣れればなんとかなるものだと思っています。

時間が限られることで、目標を設定し、逆算して取り組む

私の業務は商品セールスであり、目標も与えられます。復帰当初からフルタイムで働いていますが、保育園のお迎えがあるため、業務に集中できる時間は限られています。そのような中で、毎日あとどれくらい目標まで足りないのかを把握して、余裕がなさそうな時は、その日はセールスに集中し、余裕がありそうな時は、業務の整理など別の仕事も行っています。毎日ただ業務をこなすだけではなく、どうやったら改善できるのか、常に向上しようと考えています。私の支店には若い職員も多いため、自分のことだけではなく、後輩の育成にも力を入れています。